

来・ぶらり

RYUKOKU UNIVERSITY LIBRARY NEWS

龍谷大学
図書館報

No. 51

<http://rwave.lib.ryukoku.ac.jp/hp/>

CONTENTS

- 01 卷頭言
- 02 学生に薦めたい、この一冊
- 04 深草図書館の開設と深草学舎の歴史
- 06 写真記録：深草図書館の新旧
- 08 和顔館・深草図書館竣工

TOPICS

樹心館が登録有形文化財に登録されました。

瀬田学舎の樹心館（礼拝堂）が、2015年3月に登録有形文化財（建造物）に登録されました。この建物は、大阪南警察署（1885年）はじめ、龍谷大学図書館（1908年）、同学友会事務所（1936年）、本願寺宗務所（1948年）として利用され、樹心館（1994年）に至っています。特に図書館時代には、大谷光瑞師の別邸・二楽荘に所縁の書架等も配置されるなど、本学図書館の歴史を語る上でも欠かせない建物です。

これを機会に、樹心館に足を運んでいただき、明治期の図書館建築に思いを寄せてください。



力モン、コモンズ！

—学生とともに成長する“知の広場”—

龍谷大学図書館長
安藤 徹

この春、深草キャンパスの和顔館内に新たな図書館が完成しました。地上3階地下2階からなる新深草図書館は、従来の8号館とともに、学生のみなさんにとって新たな学びの拠点になります。これまで以上に居心地のよい“知の広場”的誕生です。

一番の注目は、龍谷大学ラーニングコモンズの一部として、地下1階を中心に行開する「ナレッジコモンズ（Knowledge Commons）」です。コンセプトは、「学生が主体的に『調べ、考え、書き、作る』知の空間」。図書館の豊富な学術情報を積極的に利用しながら、自由かつアクティブに学び合えるコモンズの可能性は無限大です。人と人、人と資料、資料と授業、授業と課外、大学と社会……さまざまなものが出会い、創造的に結びつく“学びのリエゾン”空間を活用するみなさんの可能性は無限大です。

とはいっても、努力しなければ可能性は可能性のままで終わってしまいます。それはコモンズも学生のみなさんと同じです。では、どうすれば可能性を開花させられるか。まずはどんどん使ってもらう／使ってみることです。場所はあります。機器も揃っています。学修サポートも強化していきます。みなさんの主体的で活発な学び合いが、コモンズ自体をより有意義な場へと成長させてくれるはずです。快適かつ利便な学修環境を活かして知的経験を深め合うことが、みなさんの成長をいっそう促すにちがいありません。

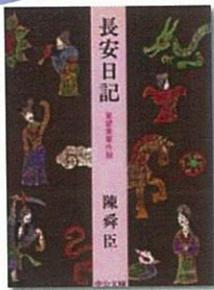
ちなみに、コモンズとは“公共・共有”的空間を意味します。そこを使う際には、最低限のルールと常識的なエチケットを守らないといけません。自由に使えるということは、周りを気にせず自分勝手なふるまいが許されることと同じではありません。私たちはみなさんを“子ども”扱いません。“大人”として信頼し、多様な人が集うコモンズをきっと魅力的な空間へと育てあってくれることを願っています。

作家の赤川次郎さんは、「生きて行くということは、砂漠の中に一人で放り出されるようなものだ」と述べています。では、砂漠で生き抜くには何が必要か。目的地に向かうための目印になる「星」と、日々の命をつなぐ「水」です（『三毛猫ホームズの遠眼鏡』岩波書店（岩波現代文庫）、2015年）。龍谷大学で学ぶみなさんが、こうした星や水をしっかりと手に入れることができるよう、私たちは全力で支えていきます。あるいは、“知の広場”としての図書館が、学生生活における星や水となるよう努力していきます。なお、2015年9月には瀬田図書館内にもナレッジコモンズを開設する予定です。大宮図書館もさらなる充実をめざします。

学生とともに成長するナレッジコモンズ、そして図書館に、どうぞご期待ください。

学生に薦めたい、この一冊

『長安日記』



深草図書館
928.7/チチ/6
資料番号
18760015763

この本は、陳舜臣氏が書いた歴史推理小説です。私たちは、研究書や専門書ばかりを読んでいると頭が疲れます。しかし、頭は痛いけれど自分が学ぼうとしている領域を離れたくないという人がいるかもしれません。その時に助けとなるのが、少し違う方向から気楽に読むことができる、優れた小説です。この本は、虚構の世界を描いたものですが、確かな資料を駆使した歴史推理小説です。唐の都である長安の街中で発生した事件を解決していく賀東望の推理もいいのですが、読んでいく中で長安の街の様子や名所を知ることができます。この本から、東洋史の名著である、石田幹之助著『長安の春』（平凡社 東洋文庫 91）に進むと、あなたも唐の長安観光ガイドになれるかもしれません。

陳 舜臣 [著] 講談社 1986年

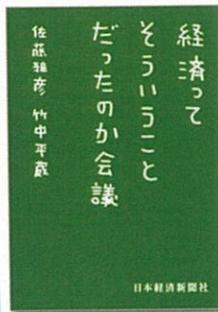
Recommenders :



文学部 教授
北村 高

『経済ってそういうことだったのか会議』

佐藤 雅彦・竹中 平蔵 [著] 日本経済新聞社 2000年



深草図書館
331/ササ-S
資料番号
10000026275

「経済学」ってどんな学問だと思いますか、イメージを教えてください。そんな質問を高校生や大学1年生によくします。お金の流れを考える学問が経済学なんていふのは良く聞く答えです。経済学者はお金儲けに理論的な基礎づけを与えて統計的に実証するのだ、なんてイメージを持っている人も多いのではないかでしょうか。

本書は経済学を知らない人（佐藤雅彦氏）と経済学者（竹中平蔵氏）の「経済」をめぐる対談集です。どのようにすればみんなが幸せになれるのかといった「共同体のあり方」という意味のギリシア語オイコノミクスが経済学の語源であるという竹中氏の説明に佐藤氏が感銘を受けて、この対談が始まったそうです。15年前に刊行された本なので取り上げられているトピックには古さを感じます。しかし対談形式ということもあり経済学の啓蒙書の中でも特に分かりやすい本だと思います。読了後に「経済学はロマンの学問」だと思ってもらえると嬉しいです。

Recommenders :



経済学部 准教授
兵庫 一也

『國弘正雄の英語の学びかた』

國弘 正雄 [著] たちばな出版 2006年



深草図書館
830.7/ケカ-C
資料番号
10905070566

グローバル化が叫ばれる今日、英語力を身につけたいと願う人は多い。巷には英語関係の書籍、教材が溢れている。しかし、実際に英語力を高めるのに、高額な教材を手に入れる必要も改めて語学学校へ通う必要もない。それを教えてくれるのが、この1冊である。英語の達人であり、「同時通訳の神様」と異名をとった國弘正雄氏が、その経験を基に英語の学習法を説かれた本である。先生の推奨する学習法は実際にシンプルで、かつ理に適ったものである。先生は、「只管朗読（意味のわかっている英文をひたすら読むこと）・只管筆写（ひたすら書き写すこと）」こそ英語学習の王道であると説かれる。教材は中学校の教科書で構わない。シンプルであるがゆえに取り組みやすく、効果が期待できる。これから大学を目指す諸君が、ここで英語力を高めておきたいと考えるなら、先生のおっしゃるシンプル、かつ効果的な学習法を実践し、英語の基礎体力をつけていただきたい。

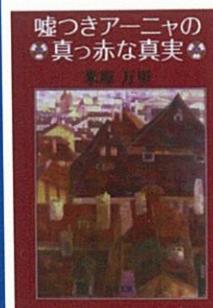
Recommenders :



経営部 教授
嶋林 昭治

『嘘つきアーニヤの真っ赤な真実』

米原 万里 [著] 角川書店 2001年



瀬田図書館
914.6/ヨカ
資料番号
30805038455

本書は主人公のマリ（ロシア語会議通訳・エッセイストの故・米原万里）が、少女時代を過ごした1960年代在布拉ハ・ソビエト学校の友との思い出と、30年後「激動の東欧」と呼ばれる時代に音信不通になった彼女たちを探す旅を描いたものです。リツツア（ギリシャ）、アーニヤ（ルーマニア）、ヤスミンカ（ユーゴスラビア）の個性豊かな3人。祖国の背負う歴史や両親の戦時中の経験が、彼女たちのアイデンティティに強く影響を与え、その後の彼女たちの人生を不幸にも幸福にもしてゆきます。社会主義も資本主義も人間の幸せを願って考えられた（はずの！）一つの政治・経済体制ですが、自身の権力・利益に固執しそして人々の幸せを忘れたとき、単なる幻想にすぎなくなること、「国家」「民族」を、「そこに生きる人々」への想像力を欠いて語ることの怖さを、彼女たちの人生は教えてくれます。新たな「戦争」が絶えず、ますます混沌とする今、読んでほしい一冊です。

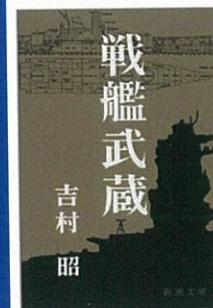
Recommenders :



法学部 准教授
瀬口 晶子

『戦艦武藏』

吉村 昭 [著] 新潮社 1971年



深草図書館
F/18
資料番号
19340009696

東日本大震災後、書店に並んだ文庫版の『三陸海岸大津波』を手にして、同地方を繰り返し襲いつて大津波の脅威や被害の実態が、41年も前に、被災当時のひととの体験談や証言をもとに淡々と克明に記録されていて吉村氏による史実解説の方法やその記録のあり方に改めて惹かれました。氏の著書には自ら収集した資料の丹念な分析に基づくものが多くフィクション作品も含めて事実の描写の細部にリアルティが感じられます。本書は、第二次大戦後一般に流布していた軍部主導戦争觀に反撥して自分の感じていた戦争觀をバックに、戦艦武藏建造計画の段階からその撃沈までを通じて戦争の姿を描いたもので、冒頭のショウ集めの謎から引き込まれ次々に解き明かされる事実のおもしろさに一気に読み通せる作品です。本書は学術書とは異なりますが、その姿勢には学問・研究に通ずるものがあり、その厳しさと楽しさを教えてくれるように思います。

Recommenders :



政策学部 教授
大田 直史



『超芸術トマソン 東京』

赤瀬川 原平【著】筑摩書房 1987年



深草図書館
520.4/アカ
資料番号
10705008246

幽靈のあふれる京都をぶらぶら散歩をするのが好きだ。感動するときもある。それは、都の町並みを「歯列」に例えると、更地になった京町屋、歯抜けの「空き地」のような場所を通るときだ。生存した隣接家屋の壁にいなくなった住まいの痕跡が保持されているのを見ると興奮する。時間の気まぐれにより、形質転換、共有していた壁に露出した聖痕、時には破線に残っている輪郭線は素晴らしい。が、その現象を表す単語はずっと見当たらなかった。「原爆タイブトマソン」がボクを感激させるものだと知ったのは、赤瀬川原平(1937-2014)の本に出会ったとき。トマソンの語源は、読売ジャイアンツ元選手ゲーリー・トマソンに由来する。莫大な費用で雇って、しかし「役に立たなかつた」アメリカの選手のメモリに、無用の建築物を「超芸術トマソン」と命名し、トマソンの分類も提案した。何の目的も持たないものこそが、人々がそれを観察し認識することによって、芸術に変身しつつある。「路上觀察学」上のトマソン探しは散歩の楽しみの一つだ。

Recommenders :
国際学部 教授
シルヴァン・カルドネル

安富歩
生きるための論語

安富 歩【著】筑摩書房 2012年

深草図書館
081/アカ/953
資料番号
11200010283

瀬田図書館
081/アカ/953
資料番号
31200010378

2015年現在、女装する（男装をやめた）東大教授として活躍する安富歩の著書。安富は、東日本震災後の福島原発についての言説にまつわる何かしら気味の悪い感じを「東大話法」として言語化し、それが、根拠なく人を思い通りに動かす不誠実な方法のひとつであることをあばきだしました。これについては、「原発危機と東大話法」や『幻影からの脱出』に詳しく述べられていて、それらを読めば、話法の現場を比較的容易に見分けることができるようになります。それでは、その対処法は？ 同書は、この回答のひとつとして読むことができます。そこでは、自分の人生を「自分の地平」で歩むための指針を論語の中に見出しています。ここでも安富は、従来の読み下しの何かしらそぐわない感じを徹底的に突きつけ、そこから、自分なりの釈文を新たに構成してゆきます。で、あとは実践あるのみ。彼が女装をはじめたのもその一環と私は思われます。彼の歩みはまだはじまったばかりです。

Recommenders :
理工学部 講師
中川 晃成

『動かすな、原発。：大飯原発地裁判決からの出発』

小出 裕章ほか【著】岩波書店 2014年

瀬田図書館
081/アカ/912
資料番号
31400027635

原発について、あなたはどう考えますか？ 反原発派は「原発ゼロ」を求めています。一方、「安定したエネルギー供給のためには、原発ゼロは非現実的だ」と考える人もいます。いったいどちらが正しいのでしょうか。ネットで検索するとたくさん情報が得られるので、どれを信じていいのか分からなくなくなります。

そんな人におススメなのがこの本です。福井県・大飯原発3、4号機の運転差し止めを求める訴訟において、福井地裁が出した判決について書かれています。原告（訴えを起こした人）は住民、被告（訴えられた側）は関西電力株式会社です。2014年5月21日、樋口英明裁判長は、運転差し止めを命じる判決を出しました。なお、「差し止め」とありますが、同原発は定期点検のため停止されているので、事実上は「再稼働してはいけない」という判決です。再稼働の是非について考える際、一度は読んでみる価値があります。司法の役割について考えるきっかけにもなるでしょう。

Recommenders :
社会学部 教授
田村 公江

井上直人
おいしい穀物の科学

井上 直人【著】講談社 2014年

深草図書館
081/アカ/1869
資料番号
11400028698

瀬田図書館
081/アカ/1869
資料番号
31400013376

皆さんは国際的な食糧不足や環境悪化に関心はありませんか。食糧問題について考える第一歩として、私たちが毎日食べている米、パンや麺類について知ることが大事です。(1) イネの作柄は水不足や夏期の低温によって下がります。温暖化はイネの増収につながるのでしょうか。(2) イネはアジアモンスーン地帯に適した穀物ですが、その理由は？(3) 店に並んでいる様々なコメの品種はどのようにして作られたのでしょうか。(4) 最近までコメからおいしいパンを作ることができなかった理由は？(5) イネやコムギ、トウモロコシは世界の主要穀物ですが、将来も現在と同じ栽培方法を続けてよいのでしょうか。他にも様々な疑問が浮かんできませんか？ この本を開くことによってより深く考えができるでしょう。さらに疑問が生まれたら、平成27年度から瀬田キャンパスに新しく生まれる農学部の先生方を訪ねてください。先生方は喜んで一緒に考えてください。

Recommenders :
農学部 教授
岡田 清孝

新井直之
チャイルド・プア：社会を蝕む子どもの貧困

新井 直之【著】TOブックス 2014年

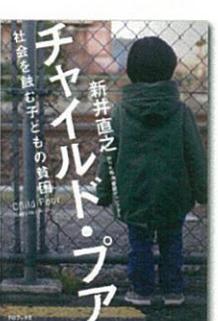
大宮図書館
559.4/ARA
資料番号
21405013273

瀬田図書館
369.4/アカ
資料番号
31405012365

学校の給食が1日で唯一の食事だった小学生。一家で夜逃げをし、車で全国を転々とする日々を2年間も送った中学生。家庭崩壊によって、10代でホームレスになった若者。いずれも現代日本の厳しい現実である。

本書は「先進国でワースト4位、さらに悪化の一途をたどる『子どもの貧困』」1冊である。NHKのディレクターとして報道番組の企画制作に携わった筆者が、取材を通して出会った子どもたちの姿を具体的に綴っている。「学齢期に学習の機会を奪われたり、心に深い傷を負ったりすると、その後の将来の可能性が閉ざされていく」、「彼らの多くは、まともな教育を受けられず、非正規で低賃金の仕事にしか就けないまま、次々と社会に放り出される。貧困の負の連鎖が急速に私たちの社会を蝕み始めていた」(p.232)と述べられるリアルには非向き合ってほしい。

Recommenders :
短期大学部 教授
中根 真



深草図書館の開設と深草学舎の歴史



龍谷大学 名誉教授
元図書館長(平成9年度・10年度)
木坂 順一郎

新棟・和顔館の工事が完成し、その地下2階から地上3階にすばらしい図書館が開設された。心からお喜び申し上げるとともに、全学の教職員と学生の皆さまがこの新図書館を十分に活用し、研究と勉学に励まれることを切に願うしたいである。この節目の時にあたり、昔を知る者の1人として深草図書館と深草学舎の歩みを振り返ってみたいと思う。

深草学舎の原風景

私が初めて深草学舎を訪れたのは、いまからちょうど50年前の1965（昭和40）年3月のことであった。4月1日付けて経済学部教員に採用されることが決まり、諸先生方への挨拶のために訪れたのである。京阪電鉄の深草駅で降りて歩きはじめると、正面に13号館（のちの1号館。今回解体されて和顔館に）が見えた。鉄筋コンクリート4階建ての堂々とした校舎である。さぞかしりっぱな校舎が並んでいるものと想像したが、東門を入ったとたん、私の想像は一瞬にして打ち砕かれた。「何だこれは！これが大学の校舎か！」。りっぱに見えた13号館は、中央の入口から東半分だけ。あとの建物はすべて木造の2階建てと平屋で、コンクリート造りに見えたのは、正門東側の1号館（本部・図書館など）中央にある4階建ての塔だけという有様であった。先生方の研究室は、校内中央の木造2階建ての旧5号館2階にあり、同じ2階には教授会や研究会用の「教授室」があった。そこを覗いてまた驚いた。教授室の壁はペンキで塗られ、その上にアメリカ兵好みの絵が描かれていた。もともと深草学舎の土地は、戦前は陸軍第16師団の武器部倉庫の跡地で、敗戦後はアメリカ占領軍が検収し利用していたものを、本学が1960年3月21日に政府から払い下げてもらい、校舎に転用したのである。

それだけではない。深草学舎の北側は警察学校に接し、東側は師団街道で大きな変化はないが、校舎西側（現在22号館）と正門前の体育館・サークル会館・学友会館の道路に面した部分は、田んぼであった。また竹田街道には京都駅から中書島へ行く市電が走り、竹田久保町の停留所からは稻荷山の全体が間近に見えた。さらに13号館の2～4階からは、名神高速道路（1963年7月尼崎～栗東間開業。1965年7月全線開業）を走る自動車が豆粒のように見えていた。ちなみに正門前から



図書館2階から13号館（のちに1号館に改称）を望む

名神高速道路までの間は、第16師団練兵場の跡地で、家はまだあまり建ってはいなかった。これが50年前の深草学舎の原風景であった。

龍谷大学発展の歴史

龍谷大学の創建は、本願寺境内に学寮が創設された1639（寛永16）年11月14日にまでさかのぼる。この年はまた、鎖国が完成された年でもある。その後いくつかの変遷をへて、1922（大正11）年5月20日、大学令による認可を受けて龍谷大学と改称し、大宮学舎で文学部だけの単科大学として発展してきた。しかし敗戦後、日本の民主化が進み大学進学率が向上するなかで、本学は1950（昭和25）年4月1日に短期大学部を開設し、さらに総合大学への飛躍を目指し、1960年4月1日に深草学舎を開校、5月には一般教育課程の教室と学寮（大宮寮から東寮と南寮へ）の移転を行い、5月30日から一般教育の講義が開始された。つづいて翌1961年4月1日に経済学部が開設され、深草学舎の本格的な発展が開始された。

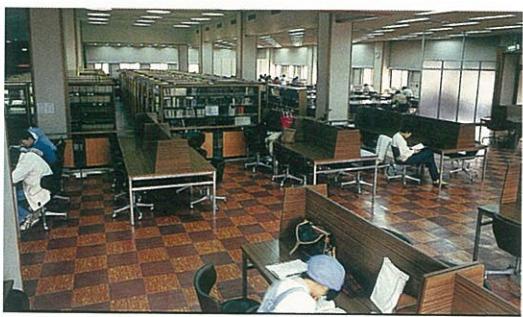
その5年後の1966年4月1日には経営学部が開設され、1967年7月18日には大学本部が大宮学舎から深草学舎へ移転し、1968年4月1日には法学部が、1969年4月には社会科学研究所がそれぞれ開設された。ついで1973年6月30日には深草図書館が竣工、11年後の1984年3月13日には顕真館と紫明館などの竣工式と祝賀式が盛大に挙行された。その間の1965年11月には13号館西半分の増築、1968年6月には15号館が完成するなど、深草学舎の増築と整備が着々と進められていった。そして1989年4月1日には、創立350周年の記念事業として瀬田学舎に理工学部と社会学部および瀬田図書館が開設され、ここに本学の大宮・深草・瀬田という3学舎の体制ができあがった。

深草図書館の整備と充実

一方、深草図書館の歴史は、先に述べたように1960年5月30日からの一般教育課程の講義開始を目標に、大宮図書館から一般教育関係図書4866冊を移管し、9月12日から旧5号館の片隅に臨時の閲覧室（50席）と書架を設置することから始まった。そして翌1961年4月1日からは、本部などが入っていた旧1号館の東側部分に閲覧室と書架を移設した。しかし図書館業務の大半を占める図書の収集とその分類・整理などの作業は、すべて大宮図書館の職員が担当し、分類ラベルをつけて整理された図書を深草図書館へ運び、深草図書館職員は閲覧業務担当の2名だけという有様であった。しかしこれでは能率が悪すぎるということで、1967年4月からは深草図書館職員が12名に増員され、9月からは学生の強い要望もあり、大宮・深草両図書館の閲覧時間を午後8時まで延長す



新聞閲覧室 1F



閲覧室（2F）



カード目録コーナー（1F）

ことになった。

経営学部と法学部の増設にあたっては、文部省の大学設置基準によって専門と一般教育関係図書の最低収集冊数などが厳格に定められており、その図書目録を学部設置申請書とともに提出することが義務づけられていた。この大量の業務を通常の図書館職員の人数でこなすことは不可能なため、新設学部へ移籍する予定の教員が講義の空き時間や春夏冬の休暇期間を利用して、新刊の外国書と和書の発注、古書購入のための出張、購入図書分類などの業務を手伝った。私も法学部の同僚となる4人の方々とともにこれらの業務を担当し、東京の神田神保町と本郷の東大赤門前にある古書店を数日かけて尋ね歩き、ときには古書店の倉庫にまで入れてもらい、法学・政治学関係の古書を買い集めたり、図書の分類については図書館のベテランの職員に教えてもらしながら業務に当たったことを思い出す。

旧1号館の図書館はいかにも貧弱であったため、評議会などでの審議を経て新図書館を校内中央に建設することになり、それは1973年6月30日に竣工した。同時に図書館本部を大宮図書館から移設し、深草図書館が本学中心の図書館となった。しかし増えつづける蔵書のため手狭となり、その後大規模な増築工事を行なった結果、1990（平成2）年3月31日現在の蔵書冊数は、和書275681冊、外国書189035冊、合計464716冊、和雑誌3150、洋雑誌1352、合計4502となった。

特色ある蔵書群

深草図書館の蔵書の大きな特色は、貴重な文庫や文書が収蔵されていることである。例えば長尾文庫は、大長水産の長尾隆次代表取締役が30余年かけて蒐集した社史・団体史・産業史など約1万点のほか、「社外秘」とされた資料や未発表資料、江戸末期から明治期にかけての引札（ちらし、ビラ）を中心とした広告資料も含まれ、日本有数のコレクションと称されている。また花岡文庫は、本学の卒業生で日本を代表する児童文学作家の花園大学の蔵書であり、J·S·ミルのコレクションは、イギリスの著名な哲学者・経済学者であるミルの蔵書であり、

その他多くの著名人の文庫が収蔵されている。さらに貴重な文書としては、安重根が処刑される前に旅順の獄中で書き残した3点の墨書がある。彼は1909（明治42）年10月26日朝、元首相で元老の伊藤博文を中国東北のハルビン駅で射殺した韓国人で、日本では伊藤暗殺の犯人だが、韓国と北朝鮮では日本による韓国植民地化に命がけで反対し、その元凶の1人である伊藤を暗殺し、東洋平和を主張した救國独立運動の闘士として称えられ、ソウルには記念館まで建てられている人物で、その見事な達筆ぶりは、彼が単なる無知なテロリストではないことを物語っている。

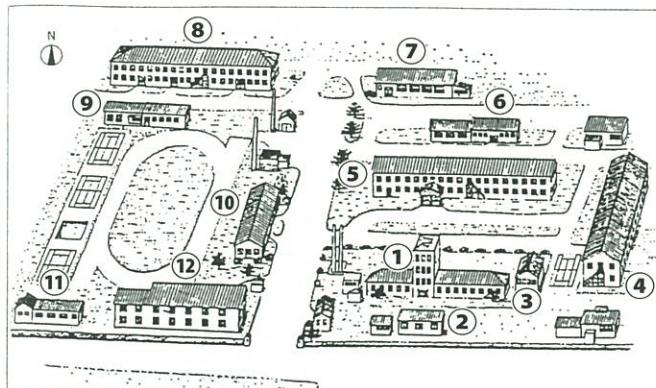
本学では、1979年8月に大型電子計算機を購入したことを契機に電算化が本格化し、順次図書館業務の機械化も進められていった。その後、ワープロやパソコンなどが一般に普及したことと相まって図書検索の情報化が進められ、それまで図書館の必需品であった検索用カードボックスの利用者が激減していった。

またこれと並行して学内3図書館の間での図書交換貸出しだけなく、他大学図書館や国立国会図書館などとの業務上の交流や蔵書の交換貸出しなどの提携も行われている。50年前には考えられなかつた変貌ぶりである。

最後に、全学の皆さまがこの新図書館を活用して自己を啓発し、長い人生を歩むために必要な実力を身につけてくださることを重ねて切望するだいである。



メインカウンター（1F）



創設時の深草学舎鳥瞰図

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|------------|
| ① 1号館 | 本部・図書館・タイプ
室・ベース室 | ⑦ 7号館 | 講堂 |
| ② 2号館 | 大教室 | ⑧ 8号館 | 教室 |
| ③ 3号館 | 医務室（未工事） | ⑨ 9号館 | 自然科学教室・実験室 |
| ④ 4号館 | 東寮 | ⑩ 10号館 | 会議室（仮事務所） |
| ⑤ 5号館 | 教授室・食堂・研究室 | ⑪ 11号館 | 体育関係室 |
| ⑥ 6号館 | 柔・剣・空・道場 | ⑫ 12号館 | 南寮 |

*上図は1961年度（昭和36）の大学要覧より抜粋。

[図の出典：『龍谷大学三百年五十年史』通史編 下巻 928 頁]

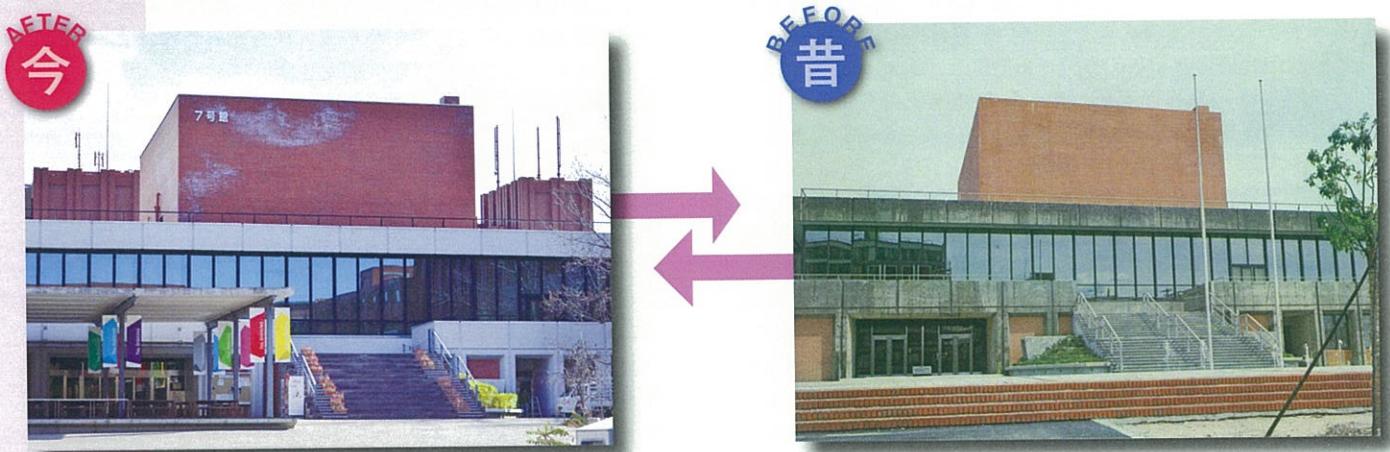
写真で辿る 深草図書館の今昔

2015（平成27）年4月から、新棟「和顔館」内で新深草図書館が新しく展開することになりました。このため、1973（昭和48）年の竣工以来、40年余りの長きにわたり親しまれてきた旧深草図書館は、図書館としての役割を終えました。

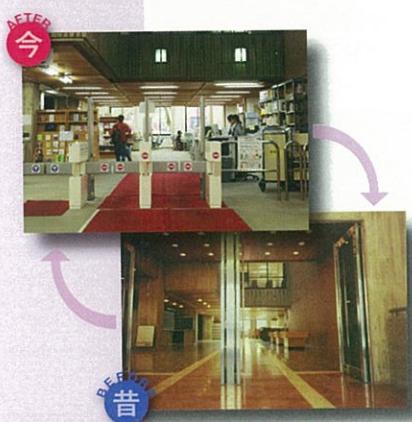
本特集では、旧深草図書館の竣工パンフレットの写真と現状の写真を対比して、40年を超えた旧深草図書館の変遷を辿ります。旧深草図書館の来し方を振り返るとともに、新深草図書館の始まりを記念したく思います。

正面から見た旧深草図書館

中庭部分から旧深草図書館の正面を望んだ写真である。後方に紫英館が無い時代の旧図書館はまさに深草学舎のシンボル的建物であった。その後、経年改修で外壁のコンクリート部分が白く塗装され、さらに中庭改修時にあわせて中央階段部分が付け替えられている。またその際に設けられたエントランス部のデッキは、学生たちのコミュニケーションエリアとして大人気の場所となった。



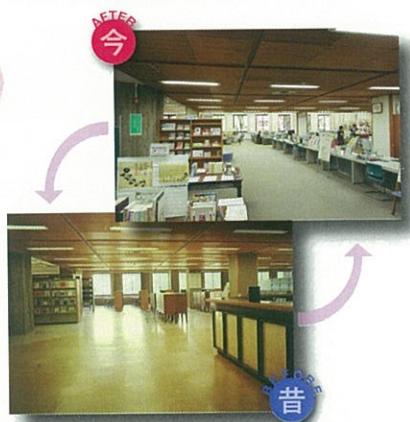
閲覧者入口



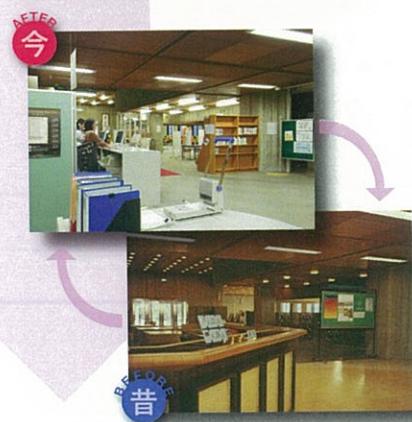
貸出返却カウンター付近から、1階奥を望んだ写真である。竣工当時は総合カウンターもなく、カード目録のボックスが集中的に並べられていた。OPACなど到底予測も出来なかった時代である。その後この付近はインターネットコーナーとなる。まさに隔世の感である。

玄関から閲覧室入口を望んだ写真である。竣工当時は入館ゲートも設置されておらず、開放感がある。入館者は、当時の新聞閲覧室（後のグループ学習エリア）付近に設置されていたロッカーに鞄等を仕舞って閲覧室に進むことになる。

メインデスクから閲覧室を望む



メインデスクから入口を望む



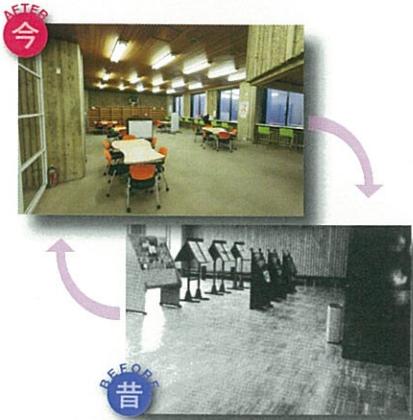
CD-ROMコーナー（最終時）辺りから、総合カウンター（最終時）辺りを望んだ写真である。竣工当時はこの付近は、レファレンス資料とともに、学術雑誌とそのバックナンバー、一般雑誌が配架されていた。個別レファレンスの思想そのものがまだ未成熟であった時代である。

貸出返却カウンター付近から、入口を望んだ写真である。右奥に先述の入館者の荷物用ロッカーランド、さらにその奥には新聞閲覧室がある。旧図書館では、この部分は2012年度以降、グループ学習エリアとして多くの学生で終日賑わいを持った。

閲覧室（1階）



新聞閲覧室(1階)



学習室1（最終時）に該当する場所である。エントランス部の吹き抜け場所に位置し、広めの窓もあり開放感があった。外部からの貴重書利用者用に対応したものであると思われる。その後は時代の要請により学習室に転用された。

学習室(2階)



書庫が閉架式であったため、出納業務をおこなう貸出・返却カウンターは最終時よりも執務面積が広かった。最終的には、この部分は総合カウンターの執務部分となった。図書館の業務の広がりが再認識できる変更であった。

竣工当時とほとんど変化しなかった場所である。但し、内部の什器については、グループ学習エリア設置時に可動式のものに変更されている。学習室は当初は2室であった。竣工パンフによれば「図書館資料による共同討議のためのもの」とされており、現在でも意義は同じである。

閲覧室 個席(2階)



参考図書コーナー（最終時）を中心とし、この部分のみが開架式書架であった。竣工パンフには「2階は開架の周囲に床を一段あげて閲覧室を設けているが、これは閲覧席が開架と一室でありながら、本を捜すひととの動きに妨げられることのない固有の空間をもたらせるためであり、吹き抜けを設けたのは入口ロビーから開架式書架が見えるようにして、入館者に目的を意識させようとしたためである。」とある。この部分は竣工パンフの中でもとりわけ大きく撮影されており、当時の誇るべき閲覧室であった。

この場所も竣工当時とほとんど変化がなかった場所である。集中的に個別学習を行っていたものにとってはその頃もまさに学習のための聖域であった。什器はその後逐次更新され、最終時には個別照明付きの快適な物となった。

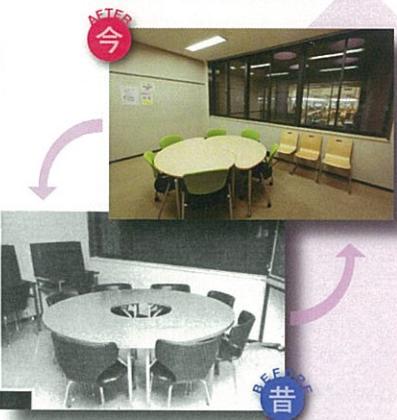
書庫(積層5層)



7号館2階の南側閲覧室の屋上から、東北を望んだ写真である。竣工当時は8号館はおろか、紫英館も建築されておらず、稻荷山の遠景が一望できる。奥には当時の13号館（のちに1号館と改称）のシンボル的な棟屋（鐘楼）がはっきりと写っている。当時の深草学舎を知る人は懐かしい情景である。

書庫は竣工当時は閉架式であった。このため学生は、メインデスクにその都度、図書の出納を依頼する必要があった。深草図書館の8号館部分が増設<1993年（平成5）>されて以降、7号館の積層書庫は2層以上が開架書庫となり、学生の自由利用が可能となった。

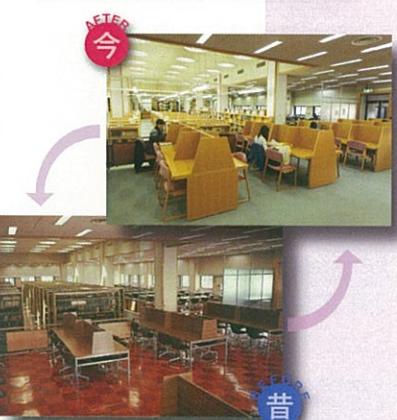
特別閲覧室(2階)



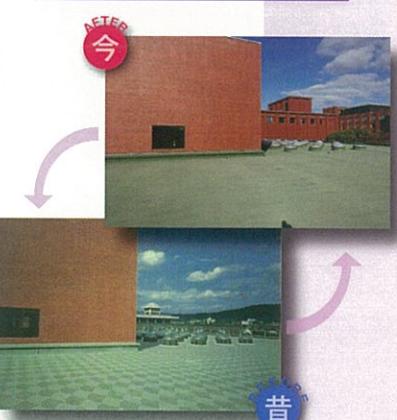
メインデスク(1階)



開架閲覧室(2階)



2階閲覧室屋上から東北を望む



和顔館・深草図書館竣工

学生が主体的に「調べ、考え、書き、作る」知の空間

2015年2月に新棟・和顔館（わけんかん）が竣工しました。2015年度からは、深草図書館もこの新棟を中心に展開されることになります。

新深草図書館は、地上3階地下2階建で、既存の8号館と連結して、これまで以上に充実したスペースと快適かつ利便な学修環境を実現しています。フロアごとのゾーニングを徹底し、さらに多様な閲覧席を設けることで、さまざまな利用方法に対応可能となっています。

その中でも特に地下1階を中心に行開するナレッジコモンズは、図書館の豊富な学術情報を活用しながら自由かつアクティブに学び合える、「知の交流」空間、「学びのリゾン」空間です。

新深草図書館を皆さんのがびのあらゆるシーンに活用して、充実した学生生活を過ごしてください。

（なお、和顔館・深草図書館の詳細については次号で紹介予定です。）



グループワークルーム（2F）



閲覧席（2F）



大円卓（1F）



展示コーナー（1F）



光庭（B2F）



入退館ゲート（B1F）



閲覧席（B2F）



AV & PCコーナー（B1F）



ナレッジスクエア（B1F）



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学図書館報

来・ぶらり 第51号

2015(平成27)年4月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL. 075-645-7885 (ダイヤルイン)

<http://rwave.lib.ryukoku.ac.jp/hp/>